

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立呼子小学校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「よぶこっこ学習過程」を全教職員で進めていくことで学力向上に努め、特に「かく活動」を重点的に進めることができた。児童自身が「本当にわかる」ことを目指し適切な自己評価ができるようにしていく必要がある。 児童の自尊感情を高める学習活動や児童の困り感に寄り添うための職員研修などを通して、ひとりひとりを大切に教育を進めることができた。 地域を題材とした学習活動に取り組み、地域の良さに気付くことができた。さらに学習活動を充実させ、呼子を誇りに思い、自己肯定感を高めて夢に向かって努力する児童の育成を図っていく。 	
2 学校教育目標	自他を大切にするとともに、主体的に考え・動く子どもの育成	目指す児童像 めざせ！キラリと光る 呼子っ子 よ よく聞き考え 進んで勉強(かしこく=学力の保障) が ぶつかるやる気 バリバリ仕事(あたたかく=勤労奉仕) こ ことばハキハキ あいさつ礼儀(あたたかく=自他の尊重) つ つけようけじめ なくそういじめ(あたたかく=差別解消)

3 本年度の重点目標	【令和5年度 呼子小重点プロジェクト】 ①学力の保障 ②ひとりひとりを大切に教育 ③呼子プライドを育む教育 ④業務改善	
------------	---	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目		重点取組		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「よぶこっこの学習過程」を実践し、「かく力」をつけるための授業をめざし、取り組んだ。」と回答した教師の割合が80%以上(アンケート) ○「授業がよくわかる」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合90%以上(アンケート)。	・「よぶこっこ学習過程」の授業実践に取り組む。 ・学習過程の中で「かく活動」に重点をおき、条件やキーワードを意識して書けるような活動を仕組んでいく。 ・知識・技能を身につけさせるために、朝のぐんぐんタイムで、計算問題に取り組む時間を確実に設ける。	B	・「よぶこっこの学習過程」を実践し、「かく力」をつけるための授業をめざし、取り組んだ。(92%) ・朝のぐんぐんタイム(計算)の時間を確実に設けた。(90%) ・児童アンケート「授業がよくわかる」(93%) ・中間評価と同様、最終アンケートでも数値目標は達成していた。しかし、標準学力調査の結果から1年生を除くすべての学年が全国平均正答率を下回っており、児童の基礎学力の定着を見ると十分とは言えない。基礎学力の定着を図る取り組みをさらに工夫する必要がある。	B	・タブレット端末を利用して、授業を改善や基礎学力の定着を図る努力をしている。これからも頑張りたい。 ・児童は、「授業がよくわかる」と答えている。定着のために家庭学習も頑張りたい。そのためには、家庭での基本的な生活習慣も大事だと思う。	
●心の教育	ひとりひとりを大切に教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「きらり」見つけの対象が昨年より広がった」割合75%以上(教師アンケート) ○「学校は楽しい」と答える児童90%以上(児童アンケート) ○児童集会で感想交流が昨年度より活発になる。(観察)	・委員会主体の取組や帰りの会等で児童の「きらり」見つけ活動を行い、自尊感情を高める。 ・Q-Uアンケートを有効活用し、望ましい児童集団を構築し、学級運営に生かす。 ・児童集会やたてわり活動(掃除)において、異学年間での認め合う時間を大切に。時間・発言の場の確保)	A	・「キラリ」見つけの対象が昨年より広がる言葉かけを行った教員は100%だった。 ・学校では楽しく過ごしている児童が96%だった。 ・たてわり発表会では、6年生がリーダーシップを発揮できる場の設定ができ、異学年で認め合う時間をつくることができた。 ・たてわり発表会やすこかこ発表会などの感想交流の時間で、発表する児童が多かった。	A	・縦割りでの活動は、大変良い。自己表現が苦手な児童にとっては、友達が表現する姿を見たり、それを子ども同士でほめて認め合う様子を見たりするのは大変貴重な時間だと思う。
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取り組みの充実 ○人権学習の実施	○いじめ防止等について組織的に対応できていると回答した職員90%以上(アンケート) ○「自分や友だちを大切にできた」と答える児童が85%以上(児童アンケート) ○「学校では道徳や人権教育などがきちんと実施されている」と答える割合90%以上(保護者アンケート)	・毎月第3月曜日に「心のアンケート」を実施して、児童の実態を把握し、早期対応を行う。全職員で共通理解を図り、学校全体で児童に対応していく。 ・部落差別を解消するための学習の取組(6年)を行う。 ・全校道徳の実践、言葉遣いについて考えさせる強化週間の取組を行う(年2回)。	A	・毎月「心のアンケート」を実施して、児童の実態を把握し、早期対応ができた。いじめ防止について、組織的に対応できていると回答した職員は100%だった。 ・月目標に絡めて言葉遣いを強化して指導したり、普段の児童の行動に細かく目を配り、いじめの早期発見や対応に取り組むことにより、自分や友達を大切にできているとする児童が97%と上昇した。 ・道徳や人権教育などがきちんと実施されていると答えた保護者が95%と上昇した。	A	・いじめ防止について組織的な対応ができているとの回答が100%であることは、安心できる。職員が一人て抱え込むことがないように対策を講じている。 ・よかれと思ってした言動が、いじめになることもある。適切な言葉を選び、コミュニケーションをとることの難しさを感じる。
		○教育活動のUD化 ○特別支援教育の充実	○「どの子も楽しく理解できる授業づくりのために、指示の出し方や説明の仕方においてUD化に努めた。」と答える教師が90%以上(教師アンケート)	・人権が尊重される環境づくりを視点にした授業・教室環境のUD化に努める。 ・教職員や保護者の特別支援教育についての知識や理解を研修を通して深める。 ・特別支援教育Cを中心とした支援体制のもと、支援を要する児童の実態把握し、子ども支援会議、ケース会議を通して、全職員の共通理解を図ることで有効な支援をする。 ・SCやSSW巡回指導等の外部機関を活用する。 ・授業のUD化で児童の学習理解を進める。 ・UD教育の冊子を活用する。	A	・人権が尊重される環境づくりを視点にした授業・教室環境のUD化に努め、それらの手立てをデータとして保存し、誰もが使えるようにした。 ・どの子も楽しく理解できる授業づくりのために、指示の出し方や説明の仕方においてUD化に努めたという教師は100%だった。 ・特別支援教育Cが中心となり、支援を要する児童の実態把握に努めた。子ども支援会議、ケース会議により、全職員の共通理解を図ることで有効な支援ができた。保護者とも手立てや情報を共有し連携を図った。 ・学年を跨いだ事例が生じたとき、各担任や級外と連携を図り早急に対処できていた。	A	・ケース会議等で、情報を共有したり保護者と連携したりしながら児童に寄り添った心のケアができているようで安心した。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と回答する児童80%以上(児童アンケート) ○朝食をとって登校する児童95%以上	・地域を生かした学習や夢・目標について考えさせる場面を設け、教科、学校行事等を通して、郷土を誇りに思う心や自己肯定感を高めさせる。 ・キャリアパスポートに、学習成果物や学習評価物を整理する機会を学期に2回設ける。 ・児童一人ひとりが活躍できる場をつくる教育活動に取り組む。 ・毎朝、健康チェックの際に朝ごはんの喫食状況を確認し、食べていない児童には個別に指導する。 ・給食時間中に各教室で「食」に関する指導を行う。また、給食の放送原稿を作成し、毎日給食委員会より放送してもらう。 ・毎月1回程度、家庭へ給食だよりを配布する。	A	・児童アンケートにて、健康に良い食事ができていると思う児童は94%だった。 ・朝ごはんをきちんと食べている児童は95%だった。 ・保護者アンケートにて、児童が決まった時間に自分で寝て、起きていると回答した割合は77%で、早寝早起きに課題が見られた。	A	・食事、睡眠等の生活習慣を正すことが、学力の向上につながると思う。就寝時刻や睡眠時間の確保は、家庭でしっかり取り組まないといけない。 ・窒息の事故が起きないように、食べ方の給食指導も必要である。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○児童の体力の向上	○外遊びを奨励し、佐賀県のスポーツチャレンジに全学級が取り組む。	・佐賀県のスポーツチャレンジについて取組週間に設け、各学級で一回は必ずチャレンジする。 ・なわとび習慣をつけさせ、児童主体の縦割りなわとびタイムを行う。	B	・スポーツチャレンジに5学級が取り組み、2年生がドッジボールラリーで佐賀県2位、1年生が佐賀県1位の記録だった。 ・児童アンケートで89%の児童がすすんでスポーツチャレンジや外遊びに取り組んだ。	B	・縦割りなわとびタイムは、体力向上だけでなく、ひとりひとりを大切にする教育にもつながってよい。 ・スポーツチャレンジ等で目標をもって取り組み、達成感を味わえたことは子どもの自信にもつながってよい。	
		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○1年を上期と下期に分けて、各期、超過勤務を一人当たり5%削減	・前年度比の数値を示し、タイムマネジメントを意識した働き方に取り組む。 ・行事等に見通しをもって取り組んだり、互いに声を掛け合ったりしてハッピーフライデー(定時退勤日)に学校全体で取り組む。月末は、スーパーハッピーフライデーとして、17:30全員退勤を厳守する。	B	・見直しをもって教育活動をすすめ、タイムマネジメントを意識して働き方改革に取り組んだ教職員は、79%と上昇した。 ・下期の超過勤務時間も、前年度に比べ毎月削減しており教職員の働き方や意識の変化が見られる。 ・月末金曜日のスーパーハッピーフライデーの退勤時刻厳守を進めていく必要がある。	A	・さまざまな教育活動の中で、タイムマネジメントをしながら子どもに向き合っており、先生方の努力を感じる。 ・「学校大好き、先生大好き」と、先生に憧れる子どもを育てて欲しい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目		重点取組		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○呼子プライドを育む教育	○いきいき学ぶからつっ子育成事業の推進 ○海洋教育の推進	○「学校では地域の良さを学ぶ学習に取り組んでいる」と肯定的な回答をした保護者が80%以上(保護者アンケート) ○「地域を生かした学習に取り組んだ」と肯定的な回答をした教師が80%以上(教師アンケート)	・地域を題材とした総合的な学習の時間の見直しと再構築を行う。 ・3、4、5年の総合的な学習の時間を中心に、「地域のひとこと・もの」と関わりながら、呼子の海のおよそ・歴史・環境の学習を年間20時間以上実施する。	A	・「学校では地域の良さを学ぶ学習に取り組んでいる」と肯定的な回答をした保護者が99%であった。取り組んだことを、様々な方法で発信したことで保護者に周知できた。 ・「地域を生かした学習に取り組んだ」と肯定的な回答をした学級担任は100%であった。 ・各学年で呼子の町に関わる校外学習に取り組む、地域のことを学ぶことができた。	A	・地域の良さを学ぶ取り組みに頑張っていたに感謝している。 ・小友キャラコンピートのクリーンアップなど、地域にも呼び掛けて取り組んだことが素晴らしい。また、自分たちの活動を公民館で発表するなど発信できたことが大変素晴らしい。今後も続けて欲しい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 「呼子プライドを育む教育」として、地域を題材とした学習を充実させた。それによって、学んだことを発信する表現力と共に呼子を誇りに思う気持ちを持った。今後もこのような取組で自己肯定感を高め、夢に向かって努力する児童の育成を図っていく。 表現力を育てるためにも、学力の向上を目指し、「よぶこっこ学習過程」によりかく力を育てる。
----------------	---